

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	英語表現論
科目基礎情報					
科目番号	0028		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	総合イノベーション工学専攻（エネルギー・機能創成コース）		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書：The Two Gentlemen of Verona (The New Cambridge Shakespeare)（英語）ペーパーバック Kurt Schlueter（編集）updated edition 2012				
担当教員	松尾 江津子				
到達目標					
英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳで得た英語の知識技能を活用し，より高度な英語のリーディング能力を養うことを目指す．具体的には，William ShakespeareのThe Two Gentlemen of Verona『ヴェローナの二紳士』を精読し，読解力の向上，文法事項・語彙・慣用表現などの知識の強化をねらいとする．また，英文を理解し内容を楽しむと同時に，その文章を生み出した歴史や文化，社会について学び，教養を身に付けることを目的とする．イギリスの歴史や文化，レトリックを学び，かつ全世界で各地の歴史風土と結びつき，“グローバル”な変化を遂げているシェイクスピア劇を味わい，教養を高める．					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて，概要を把握し，情報を聞き取り，その内容の把握を他に適用することができる．		母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち，実際の場面や目的に応じて，基本的なコミュニケーション方略（繰り返しや相槌，ジェスチャー，アイコンタクトなどのボディランゲージ）を適切に用いながら，積極的にコミュニケーションを図ることができる．また，日常生活や身近な話題に関して，自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができ，自分の意見や感想を整理し，100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる．		母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち，実際の場面や目的に応じて，基本的なコミュニケーション方略（繰り返しや相槌，ジェスチャー，アイコンタクトなどのボディランゲージ）を適切に用いながら，積極的にコミュニケーションを図ることができない．また，日常生活や身近な話題に関して，自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話せず，自分の意見や感想を整理し，100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができない．
評価項目2	関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し，必要な情報を読み取り，その内容の把握を他に適用することができる．		自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて，概要を把握し，情報を聴き取ることができる．関心のあるトピックや自分の専門分野での英語を使う場面（プレゼンテーション，ディスカッションやディベートなど）を想定して，学生自らが準備活動や情報収集を行い，母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもちながら，主体的な態度で教室内外での日常的な質問や応答など英語で円滑なコミュニケーションをとることができる．また，関心のあるトピックについて，200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる．		自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて，概要を把握し，情報を聴き取ることができない．関心のあるトピックや自分の専門分野での英語を使う場面（プレゼンテーション，ディスカッションやディベートなど）を想定して，学生自らが準備活動や情報収集を行い，母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもちながら，主体的な態度で教室内外での日常的な質問や応答など英語で円滑なコミュニケーションをとることができない．また，関心のあるトピックについて，200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができない．
評価項目3	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い，その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら，その国の生活習慣や宗教的信条，価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明，解釈の適用ができる．		それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い，その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら，その国の生活習慣や宗教的信条，価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明し，解釈できる．		それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い，その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら，その国の生活習慣や宗教的信条，価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明も，解釈もできない．
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	William Shakespeare のThe Two Gentlemen of Verona を精読することで，読解力の向上，文法事項・語彙・慣用表現などの知識の強化をねらいとする．また，英文を理解し内容を楽しむと同時に，その文章を生み出した歴史や文化，社会について学び，教養を身に付けることを目的とする．科学・技術を研究する本校の学生にも，イギリスの歴史や文化，レトリックを学び，かつ今や全世界で各地の歴史風土と結びつき，“グローバル”な変化を遂げているシェイクスピア劇の教養を身に付け，世界に羽ばたいてほしい．				
授業の進め方・方法	・すべての授業内容は，学習・教育到達目標(A)＜視野＞および (C) ＜英語＞に対応する． ・「授業計画」における「到達目標」は，この授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする				
注意点	<到達目標の評価方法と基準>下記「授業計画」の「到達目標」1～6の習得の度合いを中間試験，期末試験，小テスト，課題により評価する．評価における各「到達目標」の重みの目安は1～5を90％，6を10％とする．試験問題や課題のレベルは，百点法により60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように設定する． <学業成績の評価方法および評価基準> 中間，期末の2回の試験の結果を70％，課題・発表・小テスト等の結果を30％として評価する．ただし，試験で60点に達していない者には再試験を課すこともあり，再試験の成績が本試験の成績を上回った場合には，60点を上限として本試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする． <単位修得要件>学業成績で60点以上を取得すること． <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> 高専学科5年間で学習した英語の知識・技能． <レポートなど>授業に関する課題・発表及び小テストを課す． <備考>授業は講義・輪読・発表形式で行う．映像資料の使用やブレイリーディング（劇の読み合わせ）を行うことを検討する．毎回の予習は，テキストの英文を辞書を引いて読んでくること．授業には必ずテキストと英和辞典（電子辞書可）を用意すること．				
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
				☐ 実務経験のある教員による授業	

授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業の進め方, 評価方法, 序論（基礎知識）	1.作品及び解説で取り上げられる英文を理解できる 2.作品及び解説で取り上げられる英文を要約できる 3.作品及び解説の内容に関する英語の問いに対して、適切な表現で答えることができる 4.作品及び解説に出てくる単語・熟語の意味及び慣用表現が理解できる 5.作品及び解説に含まれる語法、英語表現のいくつかを応用して適切な英語表現ができる 6.作品及び解説における内容に対して自分の意見を持ち、表明することができる	
		2週	The Two Gentlemen of Verona Act 1	上記1～6.	
		3週	The Two Gentlemen of Verona Act 1	上記1～6.	
		4週	The Two Gentlemen of Verona Act 2	上記1～6.	
		5週	The Two Gentlemen of Verona Act 2	上記1～6.	
		6週	The Two Gentlemen of Verona Act 3	上記1～6.	
		7週	The Two Gentlemen of Verona Act 3	上記1～6.	
		8週	中間テスト	上記1～6.	
	2ndQ	9週	中間試験の解答解説 The Two Gentlemen of Verona Act 4	上記1～6.	
		10週	The Two Gentlemen of Verona Act 4	上記1～6.	
		11週	The Two Gentlemen of Verona Act 5	上記1～6.	
		12週	The Two Gentlemen of Verona Act 5	上記1～6.	
		13週	The Two Gentlemen of Verona Play Reading	上記1～6.	
		14週	The Two Gentlemen of Verona Play Reading	上記1～6.	
		15週	The Two Gentlemen of Verona Play Reading	上記1～6.	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題・発表・小テスト		合計
総合評価割合		70	30	0	100
配点		70	30	0	100